ジャズスタンダードのハーモニイズ術を学ぶ Lage Lundハーモニイズ研究

この度はオリジナル教則本のご購入、誠にありがとうございます。

本書は過去に配信しておりましたメールマガジン「週刊ジャズスタディーマガジン」にて研究してまいりました一部の内容を再構築し新たな要素を加えた一冊となっております。

付属のトランスクリプションについて

本書にはLage Lund氏によるジャズスタンダード2曲にわたるテーマのメロディーのトランスクリプションと分析による構成となっております。どちらもLage Lund氏のギタートリオによる録音となりますので、ギターの可能性を探る上では大変有意義なソースとなっております。本書では譜面の掲載はございませんが、トランスクリライブの際にベースも採譜していきつつコード進行のアレンジやアプローチなどを考察していきました。数週間に渡り丁寧にトランスクリライブしていきましましたのでソースの情報力は確かなものとする事が出来ました。

音源の活用について

本書ではmp3 ファイルをブラウザ上からリスニングすることができるような構成となっております。音源はGuitar Pro 7 でのMidi音源を添付したものとなるので本物のサウンドとは別のものとなります。

そのため学習者の皆様には以下の2枚の音源を手にしていただき、実際の録音を丁寧にリスニングされ学習されることをご提案させていただきたいと思えます。

添付されているmp3 ファイル(ブラウザ上の)は音の構成(メロディーの構成)の確認にご活用いただければと思えます。

[Lage Lund Trio / Standards \(Amazon\)](#)

[Lage Lund Trio / Small Club, Big City \(Amazon\)](#)

アナライズされた方法論の拡張

分析され精製されるアイデア達をどのように使うかをご紹介することを中心に本書は構成されています。その為、読者の皆様自身でエクササイズの開発などに励んでいただき音楽的なコンテキスト(文脈)へ挿入できるよう準備をしていただければと思えます。

中にはいくつかの練習のためのピースをスケッチしておきましたのでそちらもご参考になさってください。練習のためのピースには参考動画へのリンクを貼り付けてありますのでそちらの動画達もインターネットブラウザ上からご観覧が可能です。

(ご利用のインターネットブラウザ動画などのメディア再生にご対応していない場合はお手数ですが別のインターネットブラウザでお試してください。)

練習方式の捻出

練習法を編み出すために秩序立った練習のプロセスを考える必要があります。

例えば本書で扱っている「オブリガートな演奏手法」を習得する為の練習構築を例にあげてみましょう。

プロセスとしては、まずギターの指板上で「コードの3度音と7度音が確認できるか否か？」に問いかけてみます。それが難しいようでしたら3弦と4弦のみでまず3度音と7度音の配列を学習していきます。

3度音と7度音の構成としては、メジャー/マイナー/ドミナント/マイナーメジャー7の計4通りのコードタイプを考え出すことができます。

それらを5弦と6弦の2本の弦にわたるルートの位置から判断できるようにするのが良いでしょう。

さらには3度音と7度音の2つの音は2弦と4弦など1本の弦をまたいだ形でも演出が可能です。

このように手法それぞれにおけるギターのフィンガリングの可能性を考案し練習されると良いでしょう。

また練習をより秩序立てたものとするためにポジションプレイでの練習を忘れないようにしましょう。

ポジションプレイに関してはYouTubeでのギターレッスン動画にてお話ししておりますのでぜひそちらもご参考になさっていただければと思います。

ポジションを意識したジャズギターの効率的な練習法について ギターレッスン [43]

<https://www.youtube.com/watch?v=JOIHH3CW1Js>

教材ファイルについて

エクストラファイルは各譜例の下記に示してある灰色のセクションからご確認いただけます。

(例)

オーディオトラック ○○

ファイルにはコンテンツ保護のためロックがかかっております。お手数ですが下記のIDとパスワードをご入力いただきご確認ください。

ID 「●●●●●●●●●●●●」 パスワード 「●●●●●●●●●●●●」

HERE'S THAT RAINY DAY

Guitar + Bass + Metronome

Guitar + Bass

Guitar Only

Gm
X O X

D11/A
X O O X

let ring -----

let ring -----

TAB

3 3 3 0 3
1 2 3
(3) 0 4 0
(3) 7 10 10 10 7

Bbmaj7

Ebmaj7

X X

5

3

7

p

(10) (7)

8 6 8 (8) p

5 7 5 7 5 4 5 5

(6)

HERE'S THAT RAINY DAY ANALYSIS

オブリガートな演出

4小節目と7～8小節目ではトップのメロディーに対してカウンター的なサウンドを確認する事ができます。まずはテーマの4小節目を確認してみましょう。

Bbmaj7

Ebmaj7

3

7

8 6 8

5

(10)

(7)

7

8

5

7

5

4

5/5

P

P

オーディオトラック 1

テーマの4小節目(下記譜例)ではトップのメロディーに対してE $\flat$ M7のドロップ2コード(ここでは5th音が欠落しています)を想定している様に感じられます。

続いてはテーマの7～8小節目を確認してみます。

Gaug

xx x

4

Em

xx x

5

F#m7

xx xx

7

B7

xx x

7

7

7

7

5

(5)

7

(9)

(7)

7

8/7

(8)

9

10

オーディオトラック 2

ちょうどピアニストの左手に当たる様な演出となっています。

このドロップコードを用いたピアノライクなサウンド演出は現代ジャズギターへの傾向ともいえる演出法です。

ここでドロップ2コードのメロディー装飾の効果的なエクササイズ例をあげておきますので是非ご参考になさってください。

練習1 ドロップ2コードメロディーエクササイズ

The exercise is divided into two systems, each with four chord diagrams and a musical staff with guitar TAB.

System 1:

- Chord 1:** Cmaj7/G (XX), fret 4. TAB: 4 (4), 2 (2), 1 (3), 3 (3).
- Chord 2:** C/B (XX), fret 5. TAB: 5 (5), 4 (5), 1 (7), 3 (7).
- Chord 3:** Cmaj7 (XX), fret 8. TAB: 8 (9), 4 (9), 2 (10), 1 (10).
- Chord 4:** Cmaj7/E (XX), fret 10. TAB: 10 (12), 4 (12), 1 (14), 2 (12).

System 2:

- Chord 1:** Cmaj7/G (X X), fret 9. TAB: 12 (12), 3 (9), 1 (10), 2 (10).
- Chord 2:** C/B (XX), fret 8. TAB: 8 (8), 3 (8), 1 (9), 2 (9).
- Chord 3:** Cmaj7 (XX), fret 10. TAB: 12 (12), 3 (12), 2 (12), 1 (10).
- Chord 4:** Cmaj7/E (XX), fret 13. TAB: 15 (15), 4 (13), 1 (16), 2 (14).

ムービーファイル 1

I'M GETTING SENTIMENTAL OVER YOU

Guitar + Bass + Metronome

Guitar + Bass

Guitar Only

A

(Eb)

(Am7b5) (D7)

E_b5

x x x

Am11

x x x

D7(b9)

x x x

4/4

7

1

2

3

3

3

let ring -----

8 (8) 8 7 8 8 6 8 10 (10) 9 8 10 8

6 (6) (6) 6 6 9 10 10

(5) (5)

TAB

(Gm7)

Gm9

x x x

C7

x xxx

3

4

3

3

3

let ring -----

11 11 10 11 8 10 (10) 8 (8) 9 8 7 10 9 8

8 12 11 8 10 10 8 8 7 10 9 8

let ring -----

I'M GETTING SENTIMENTAL OVER YOU ANALYSIS

ドミナントでのSUS4トライアド

テーマ10小節目ではD7コードに対して思い切った演出を図っています。

Dのメロディーを引き延ばしたままA $\flat$ Sus4トライアドを上重ねています。

テーマ9~10小節 ドミナント7コードでのSUS4トライアド

A

E $\flat$ (no5)
X X X
5

E $\flat$
XXX
6

Am7 $\flat$ 5

D7($\flat$ 13)
XX X
7

9

10

let ring

(10)

9/7

(9)

(10)

オーディオトラック 12

D7に対してA $\flat$ コードは裏コードとなり、そのトライアドをインターバルの視点から積み上げる事で新しいサウンドへと昇華させることができます。

シンプルにA $\flat$ のメジャートライアドでの演出もちろん可能ですが、ここでもコードと音程の重さや響きを意識してコードをチョイスしているように感じられます。